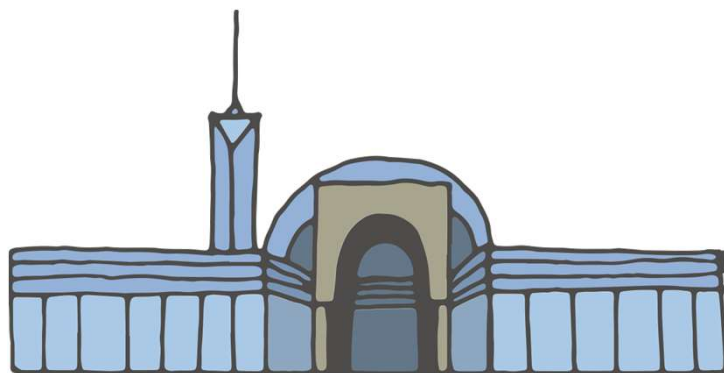




福岡市博物館リニューアル
展示に係る説明会・質問会



令和 7 年 4 月 28 日

本日、お話しすること

1. デザインポリシーについて
2. 開館時の常設展示室
3. 現行の常設展示室
4. 常設展示室をどうしたいのか
5. 常設展示室と体験学習室（1）

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

【性格】

福岡市博物館が、広く情報を発信する際、また、市民や利用者の方々とのコミュニケーションにおいて大切にすべきこと

【ねらい】

福岡市博物館の運営や事業に携わる人々がもれなくふまえることで、福岡市博物館の基本性格に対する社会の理解、信頼や期待が高まり、博物館がより良く機能する。また、リニューアルの3つの目標の達成水準を高める。

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

基本性格（平成2年10月の開館時に定めたもの）

1. 先人の残した文化遺産を保存、継承し、東アジアにおける福岡の歴史と民俗を学ぶ博物館
2. 文化遺産を通して市民とのコミュニケーションをすすめ、新しい市民文化を育む博物館
3. 調査研究機能と共に高度の情報サービス機能をもち、市民の生涯学習の場としての博物館

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

リニューアルの3つの目標

(福岡市博物館リニューアル基本計画より)

- ◆ 目標1 交流と多様性が創る都市の過去—現在—未来にむかうストーリーを発信する
- ◆ 目標2 すべての人の学び・楽しみを支え、人々の関わり合いを豊にする
- ◆ 目標3 資産・資源をより有効に活用し、博物館とエリアの魅力を高める

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

- ◆ 市民や利用者にとって価値や必要性の高い情報を前景化して発信する。
- ◆ 視認しづらい、判読しづらい、意図がわかりづらい情報に利用者をさらさない。
- ◆ 運用する情報媒体や施設における利用者とのコミュニケーションツールにおいて用いられるフォント、ピクトグラム、カラーリングを適切に管理する。

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

- ◆ 情報および媒体は、そのデリバリーの方法まで考慮に入れ、享受者のもとに届いたときに価値を十全に発揮するようにデザインする。
- ◆ 「福岡市博物館らしさ」が市民や利用者の間に共有されるよう、あるいは、展示・展覧会含む企画の世界観や企図する空気感がよく伝わるよう、意匠の統一感や一貫性を構築、堅持する。

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

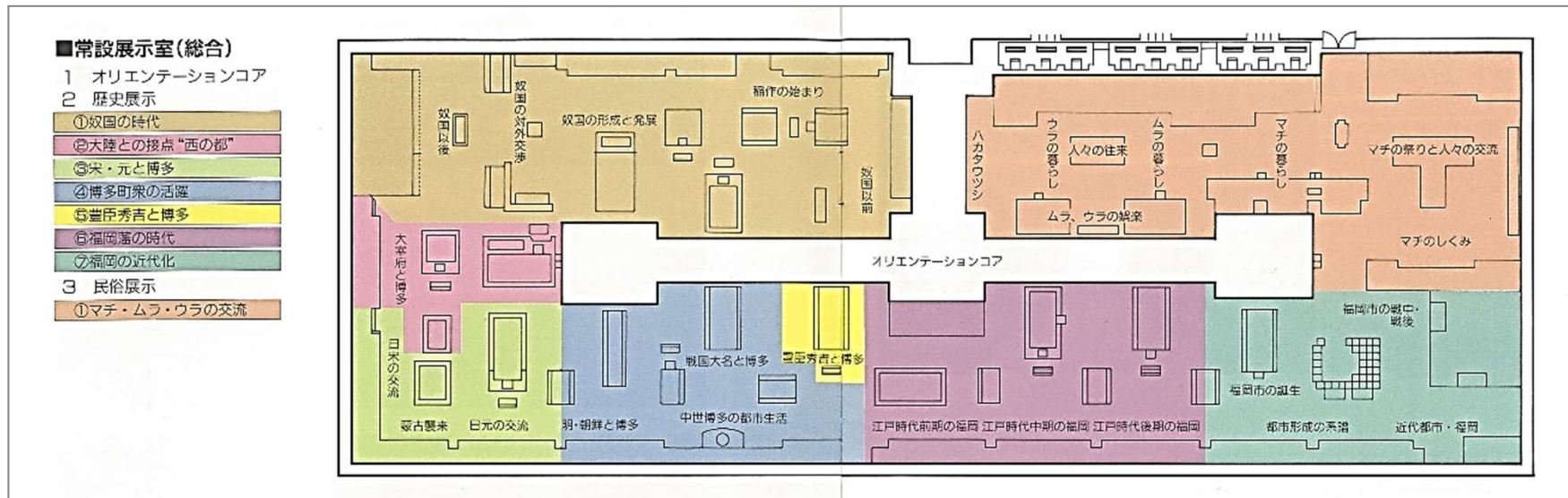
- ◆ 1つの媒体（ひとつつながりの展示空間を含む）に盛り込む情報は、享受者が全体像や構成を把握しやすいよう、適切に体系化、序列化する。全体を構成するチャプターやセクションの内容を、それぞれふさわしい語り口のテキストやビジュアルを通して効果的に表現し、かつ、**全体の調和や全体を通した構成の意図や妙を享受者が感じとることができるよう、媒体をデザインする。**

1.福岡市博物館デザインポリシーについて

- ◆ 1つの媒体に万能性を求めず、公衆送信、掲示、配布等の様々な情報伝達に加え、博物館の運営や事業に携わる者の利用者本位の配慮や適切な接遇を含めて、コミュニケーションやサービスをトータルにデザインし、高いホスピタリティを発揮することで、利用者の博物館における体験価値を最大化する。

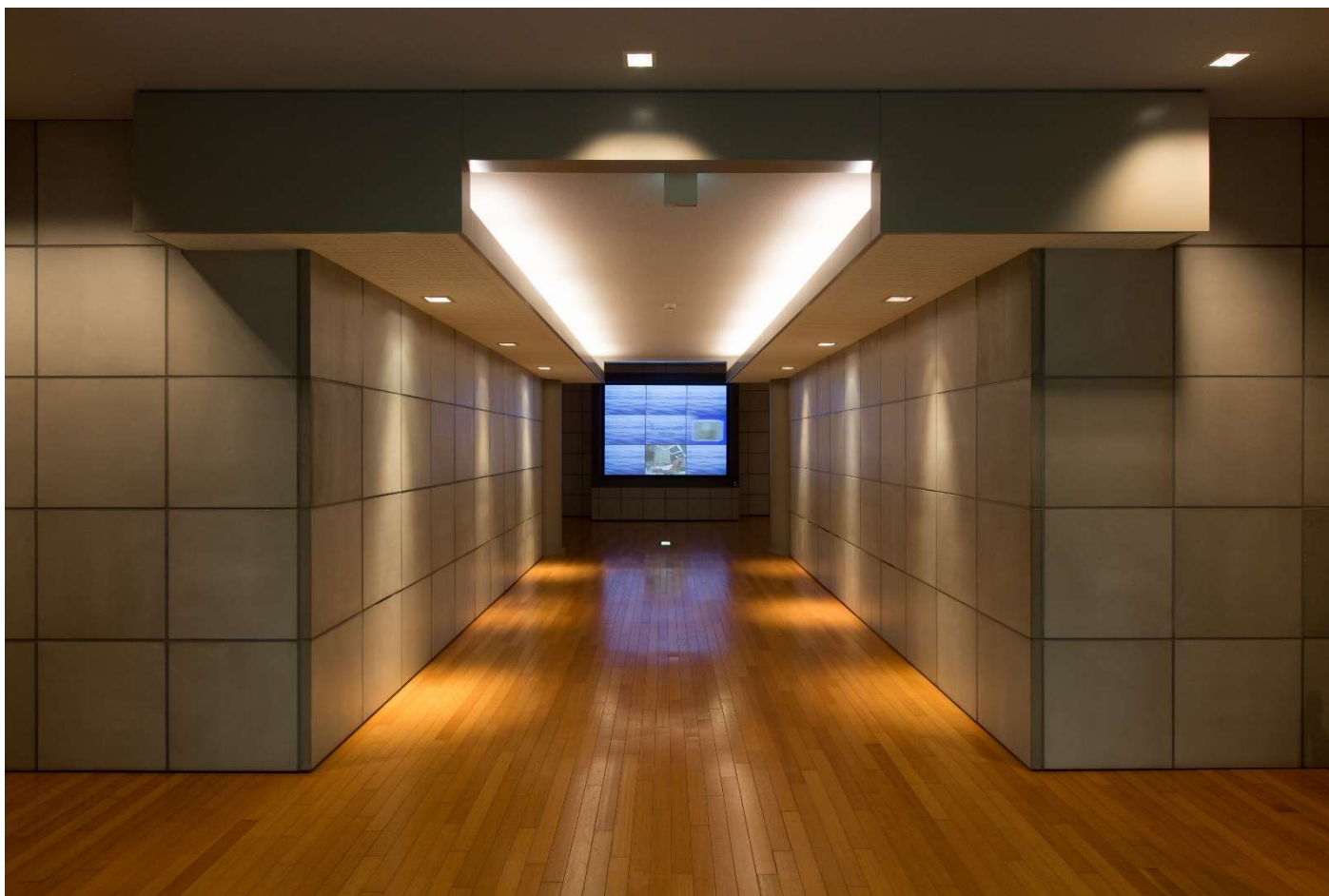
2.開館時の常設展示室

参考資料①（配布）



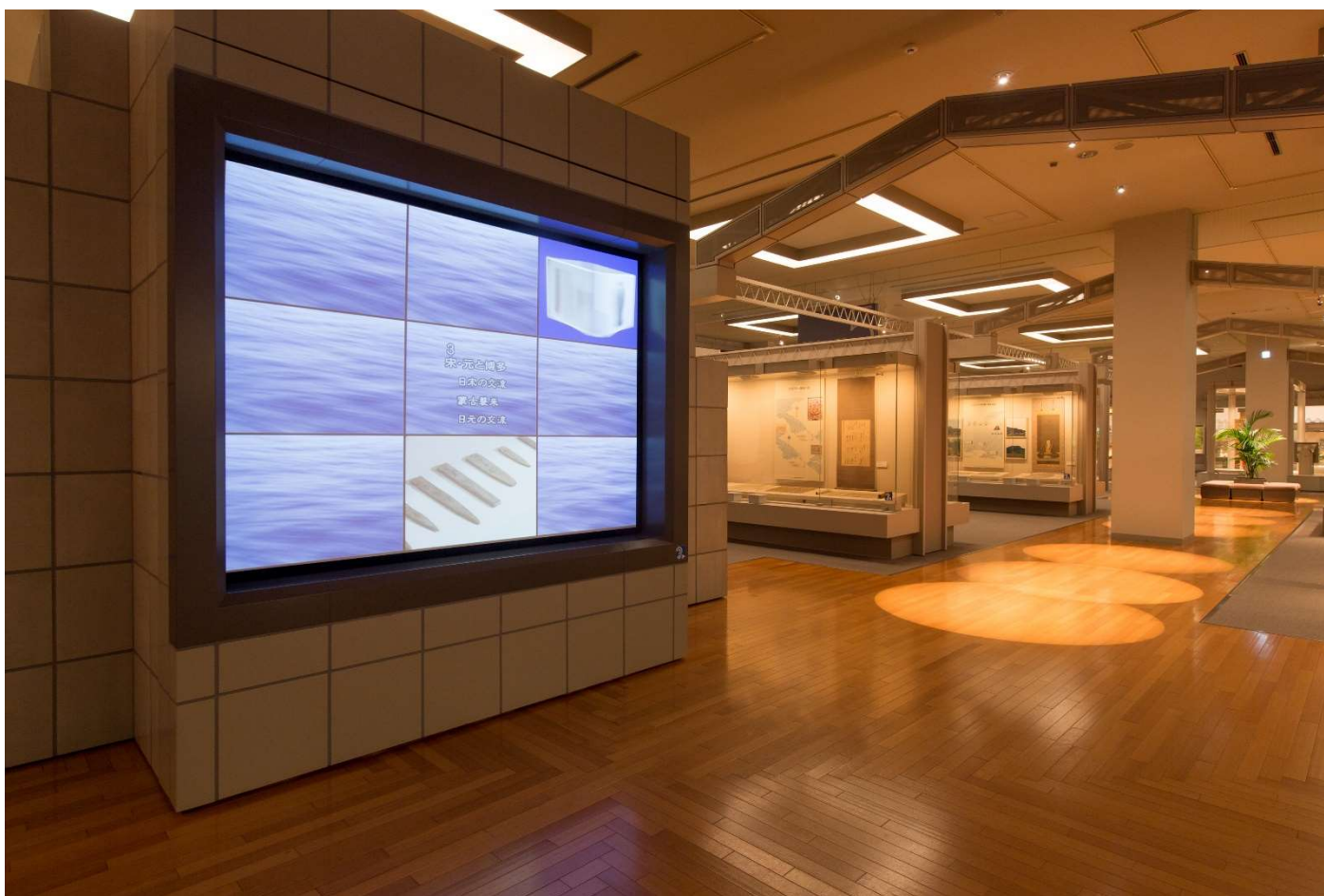
2.開館時の常設展示室

導入・オリエンテーションコア



2.開館時の常設展示室

導入・オリエンテーションコア



2.開館時の常設展示室

導入・オリエンテーションコア



2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



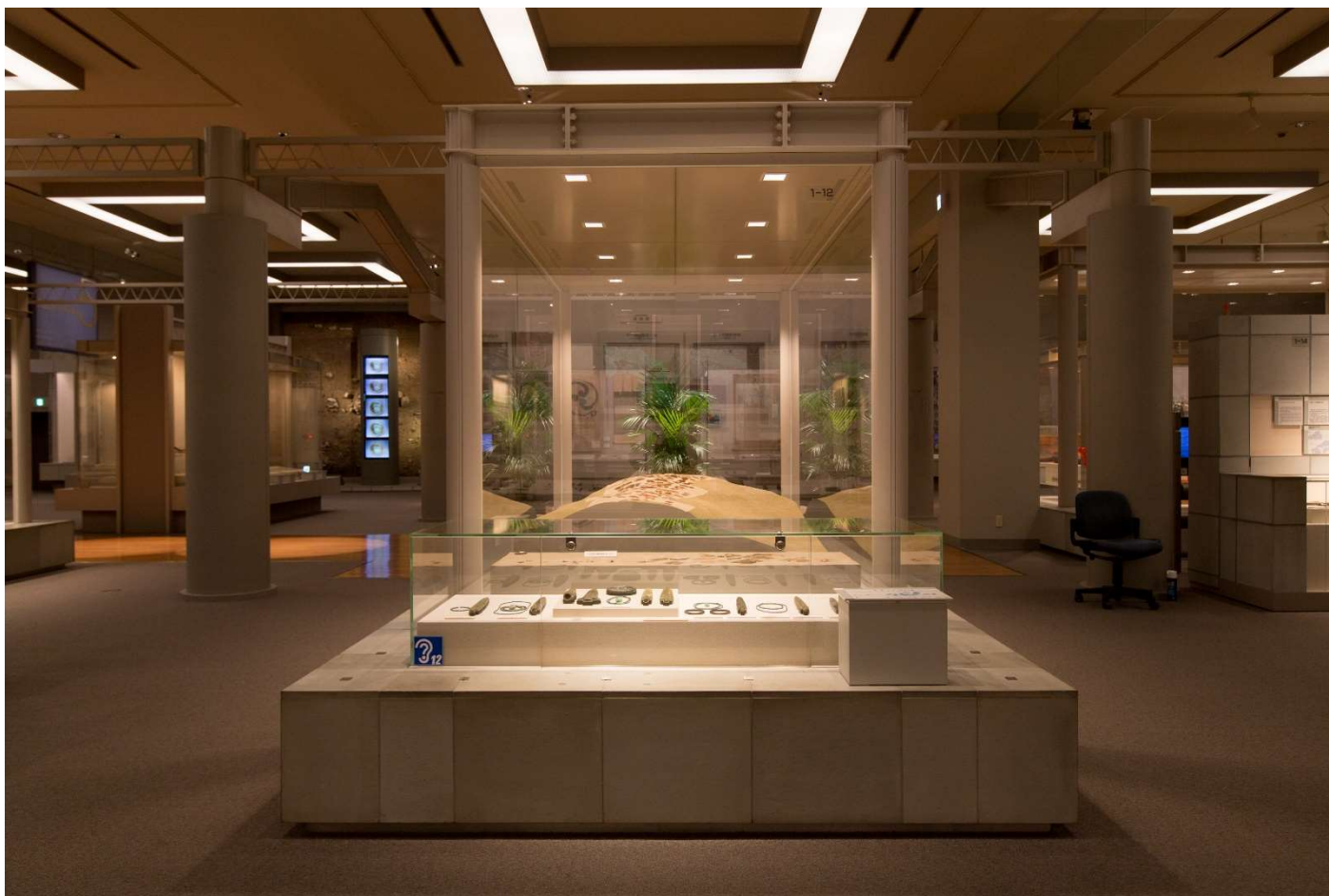
2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



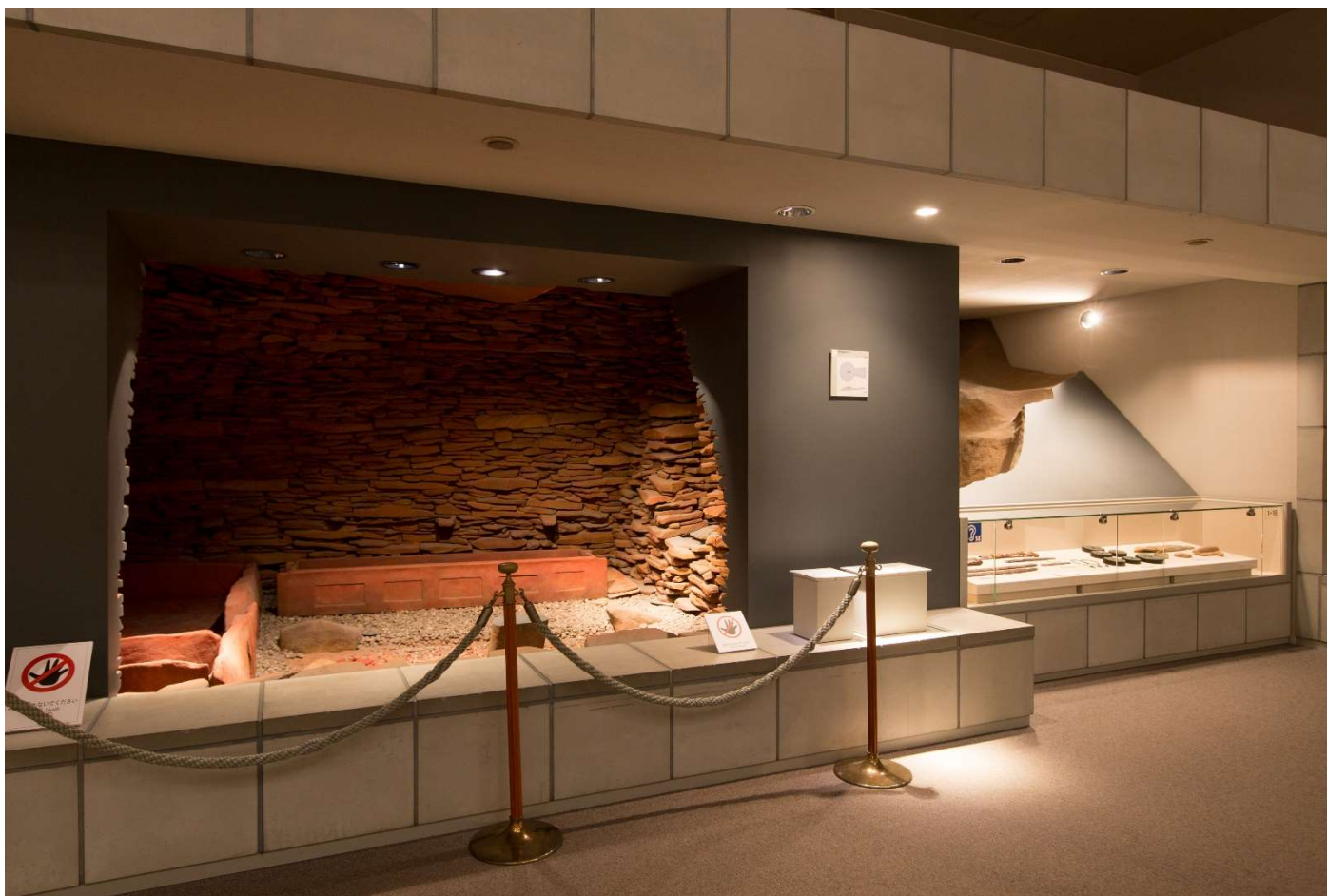
2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



2.開館時の常設展示室

① 奴国の時代



2.開館時の常設展示室

② 大陸との接点“西の都”



2.開館時の常設展示室

② 大陸との接点“西の都”



2.開館時の常設展示室

② 大陸との接点“西の都”



2.開館時の常設展示室

③ 宋・元と博多



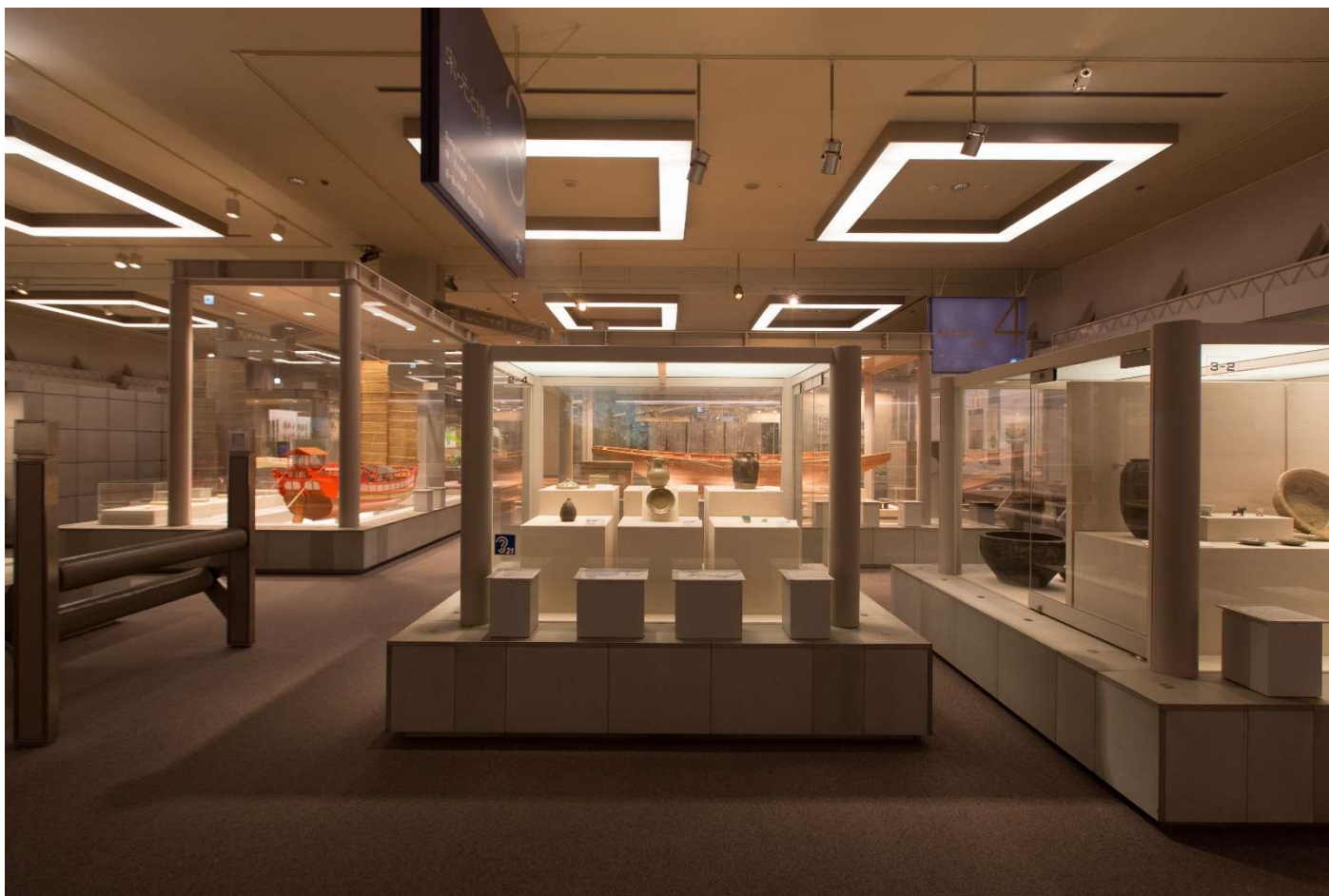
2.開館時の常設展示室

③ 宋・元と博多



2.開館時の常設展示室

③ 宋・元と博多



2.開館時の常設展示室

③ 宋・元と博多



2.開館時の常設展示室

③ 宋・元と博多



2.開館時の常設展示室

③ 宋・元と博多



2.開館時の常設展示室

④ 博多町衆の活躍



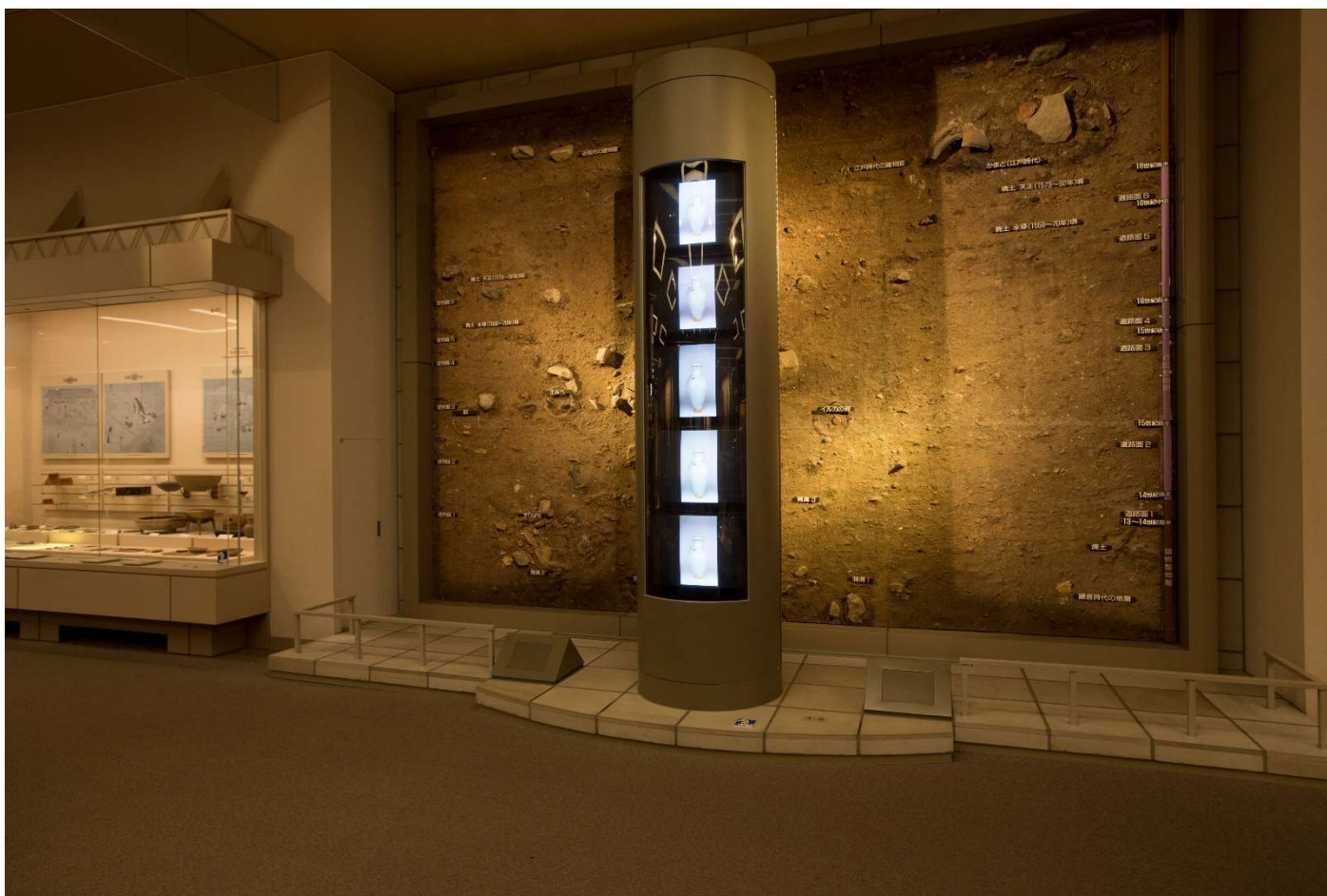
2.開館時の常設展示室

④ 博多町衆の活躍



2.開館時の常設展示室

④ 博多町衆の活躍



2.開館時の常設展示室

⑤ 豊臣秀吉と博多



2.開館時の常設展示室

⑤ 豊臣秀吉と博多



2.開館時の常設展示室

⑥ 福岡藩の時代



2.開館時の常設展示室

⑥ 福岡藩の時代



2.開館時の常設展示室

⑥ 福岡藩の時代



2.開館時の常設展示室

⑥ 福岡藩の時代



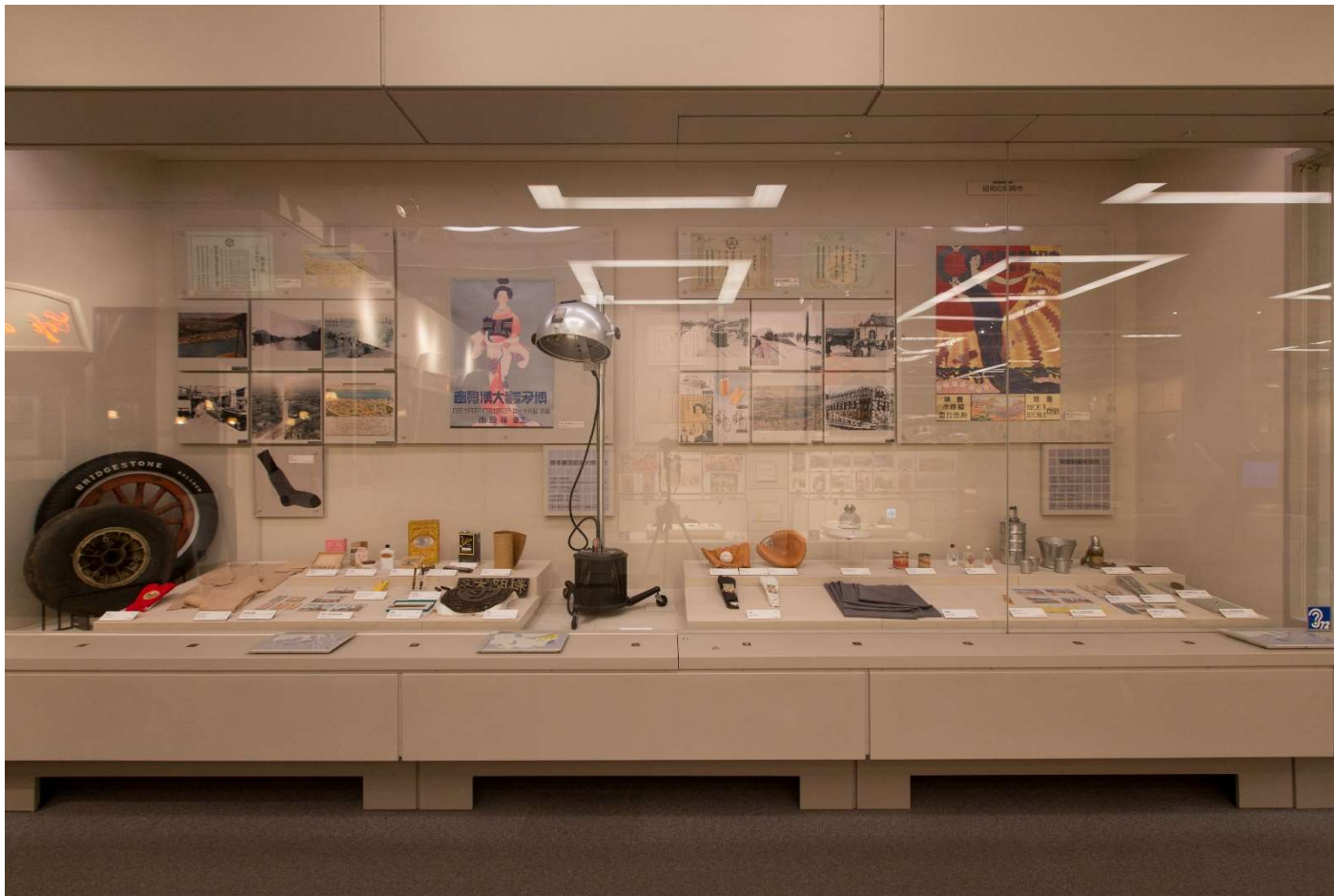
2.開館時の常設展示室

⑦ 福岡の近代化



2.開館時の常設展示室

⑦ 福岡の近代化



2.開館時の常設展示室

⑦ 福岡の近代化



2.開館時の常設展示室

⑦ 福岡の近代化



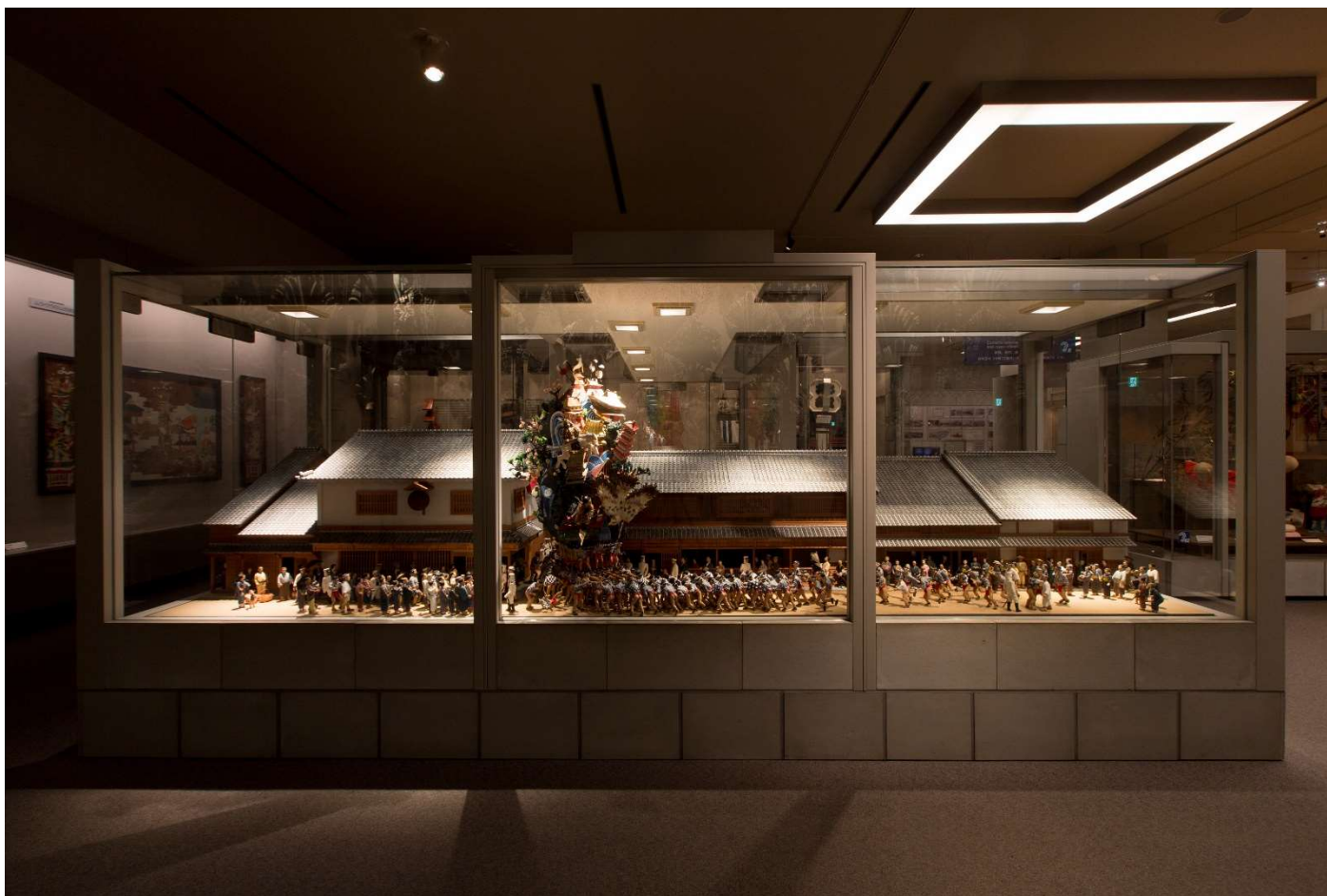
2.開館時の常設展示室

民俗展示：マチ・ムラ・ウラの交流



2.開館時の常設展示室

民俗展示：マチ・ムラ・ウラの交流



2.開館時の常設展示室

民俗展示：マチ・ムラ・ウラの交流



2.開館時の常設展示室

民俗展示：マチ・ムラ・ウラの交流



2.開館時の常設展示室

民俗展示：マチ・ムラ・ウラの交流



2.開館時の常設展示室

民俗展示：マチ・ムラ・ウラの交流



2.開館時の常設展示室

特徴 —H23-25常設展示室リニューアルで意識したところ—

- 自由動線
- タイトル類、グラフィック類は、全体で共通するデザイン
- 歴史展示と民俗展示が分かれている
- 金印が「奴国の時代」のなかで展示されている
- 露出展示は極めて少ない

3. 現行の常設展示室

特徴 ー引き継がれているー

- 正面観の強い象徴的なスペースに乏しい
- 南北の軸が強くなる



2.開館時の常設展示室

特徴 ーひきついでいる特徴ー



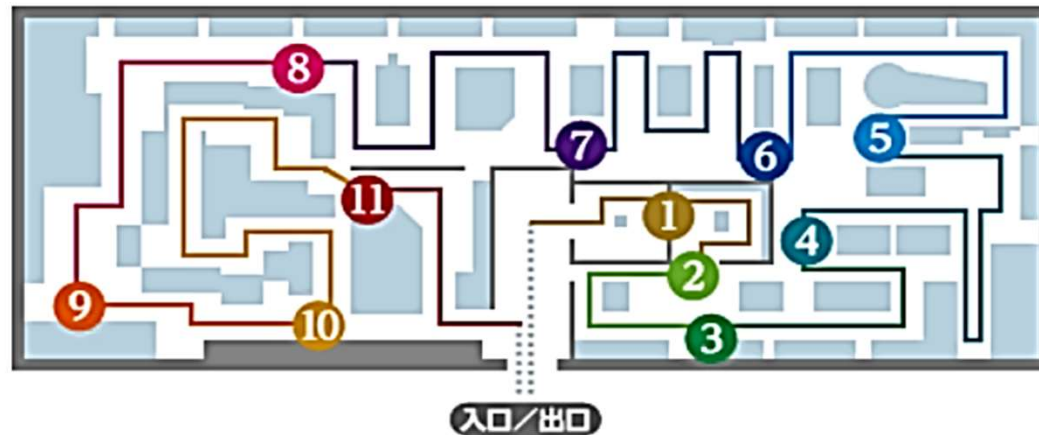
3. 現行の常設展示室

特徴 —ひきついでいる特徴—



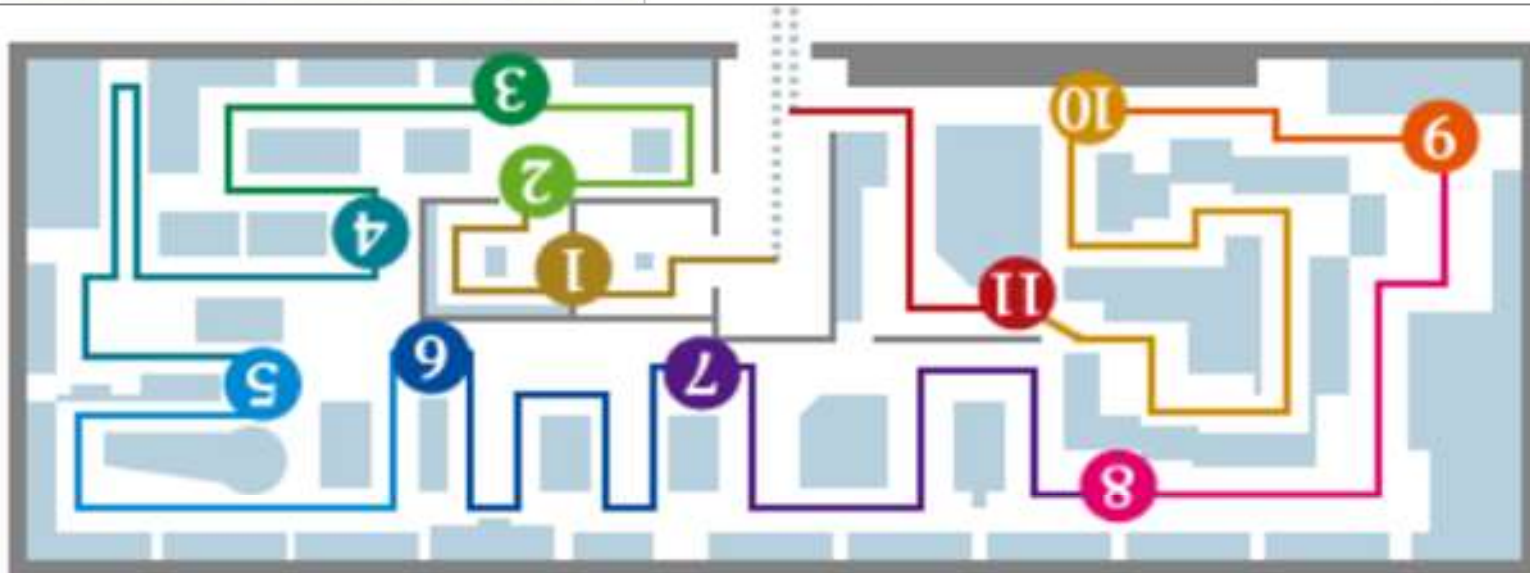
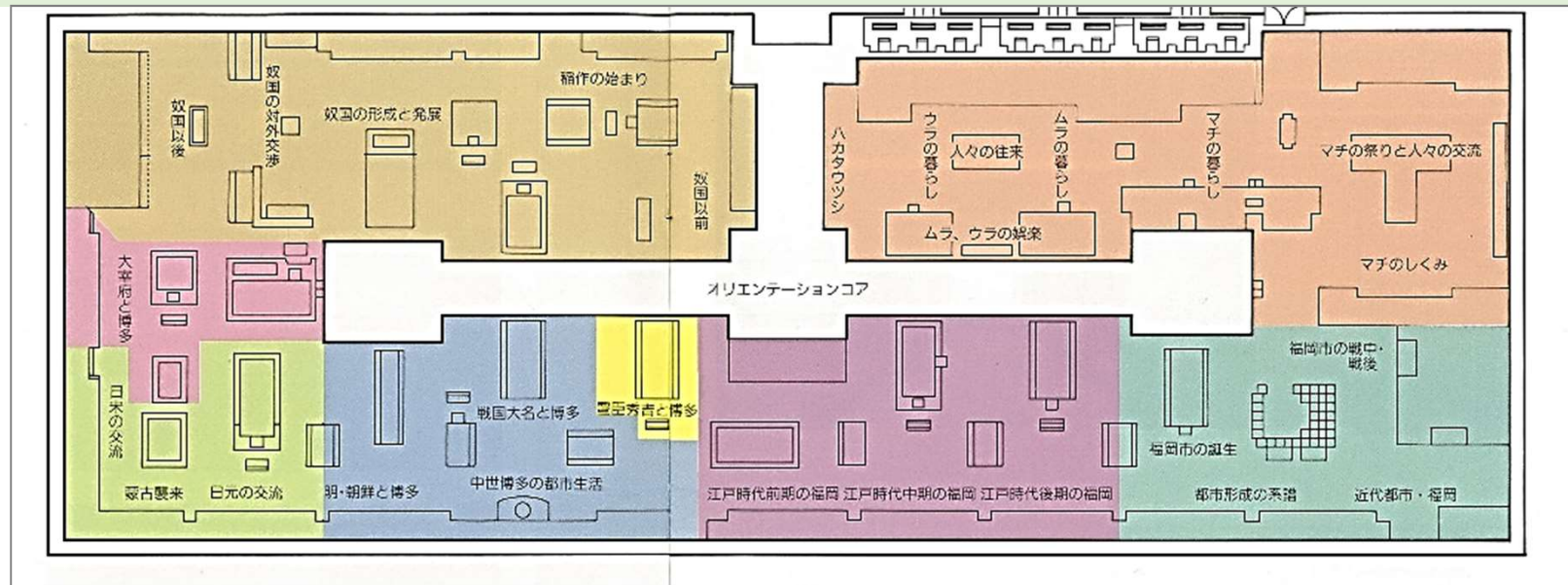
3. 現行の常設展示室

参考資料②（配布）

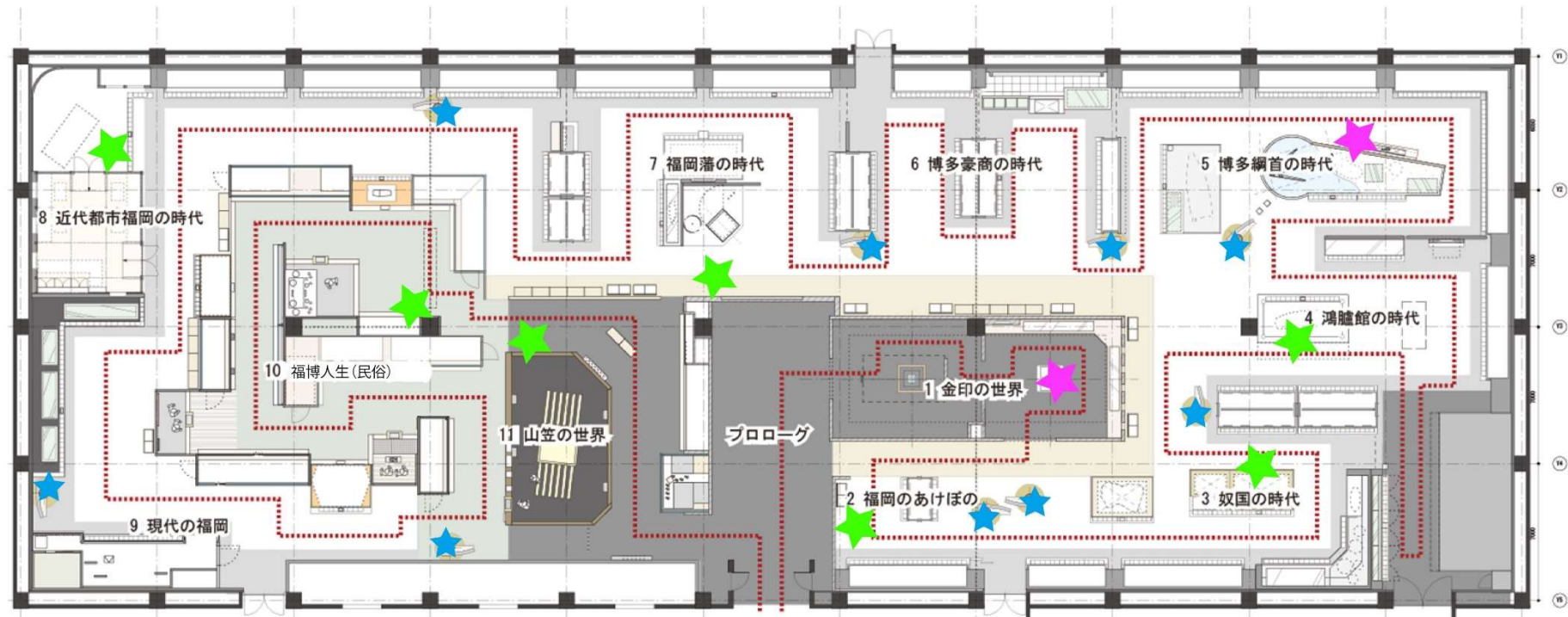


- | | |
|-----------|--------------|
| ① 金印の世界 | ⑦ 福岡藩の時代 |
| ② 福岡のあけぼの | ⑧ 近代都市・福岡の時代 |
| ③ 奴国の時代 | ⑨ 現代の福岡 |
| ④ 鴻臚館の時代 | ⑩ 福博人生 |
| ⑤ 博多綱首の時代 | ⑪ 山笠の世界 |
| ⑥ 博多豪商の時代 | |

3. 現行の常設展示室



3. 現行の常設展示室



- ★ AR＝貸し出しタブレットをかざすと、そこに無い何かが画面に出てきます。(一部、未稼働)：ナウマン象、甕棺発掘、遣唐使船、福博惣図、アロー号、博多風俗図、山笠
- ★ インタラクティブ映像＝画面をさわるとことで、映像が動いたり、新しい情報が映ったりします。：金印、蒙古襲来絵詞(原資料は宮内庁三の丸尚蔵館)

- ★ コーナータイトル＝各コーナーの始まりを示すタイトルです。各コーナーの標題は、日本語のほか英語、ハングル、中国語(簡体字&繁体字)で表記しました。また概説テキストは、英文も加えました。円柱部分には、音声解説「えきけん先生となんめい君」があり、その時代のハイライトシーンを紹介します。テーブル部分には、さわれるフロアマップと各コーナーにふさわしいさわれるアイコンをつけました。

3. 現行の常設展示室

ポイント

- 一筆書きの強制動線
- 目立つコーナータイトル
- 文化財として知名度の高い「金印」と「山笠」を独立したコーナーにし、動線の最初と最後に配した。
- 近現代の展示と民俗の展示の同時代性を強調した。
- ロービジョンの方から「絨毯がいい」
- 露出展示は開館時に比べてやや多い。開館時にケースに入っていたジオラマや模型は露出にした（コスト）。

3. 現行の常設展示室

しょんぼりポイント

- 展示：金印の世界一プロログの投影映像の映り込みをさけるため、壁をたてた。
- 情報システム：アプリ & ARが極めて短命（OSのアップデートにアプリがついていけない）
- 「語りたいこと」と「見せられるもの」の不一致がある。歴史の画期性を感じさせる遺跡について解説しているが、展示物は別の遺跡からの出土品

4. 常設展示室をどうしたいのか

【踏襲・拡充】

- 地域の文化財や博物館資料の実物を多く公開する空間であること。文化財の保全にかかる機能は設備面の最優先事項
- 金印に加えて、大身槍「日本号」や国宝刀剣等、黒田家資料（の象徴的なもの）の公開も常設展示室。とにかく、そのものが一番映える展示環境＞汎用性

◆ 常設展示室で活用する資料・文化財は、現行の常設展示と企画展示の一部を参考にされたし。もし、今後、市内で「世紀の考古学上の大発見」等があったらゴメンナサイ…。

4. 常設展示室をどうしたいのか

【踏襲・拡充】

● 充実した通史の展示

人・もの・情報の交流がさかんな「都市」的な性格を
2000年以上、間断なく持ち続けてきたこと自体が、福岡
の大きな特徴。その特徴が伝わる常設展示

◆ ただし、現行の見学動線は、あまりに長い。肉体疲労で
知る歴史の重み???

◆ 「早回り動線」VS「深掘り動線」設定には懐疑的…

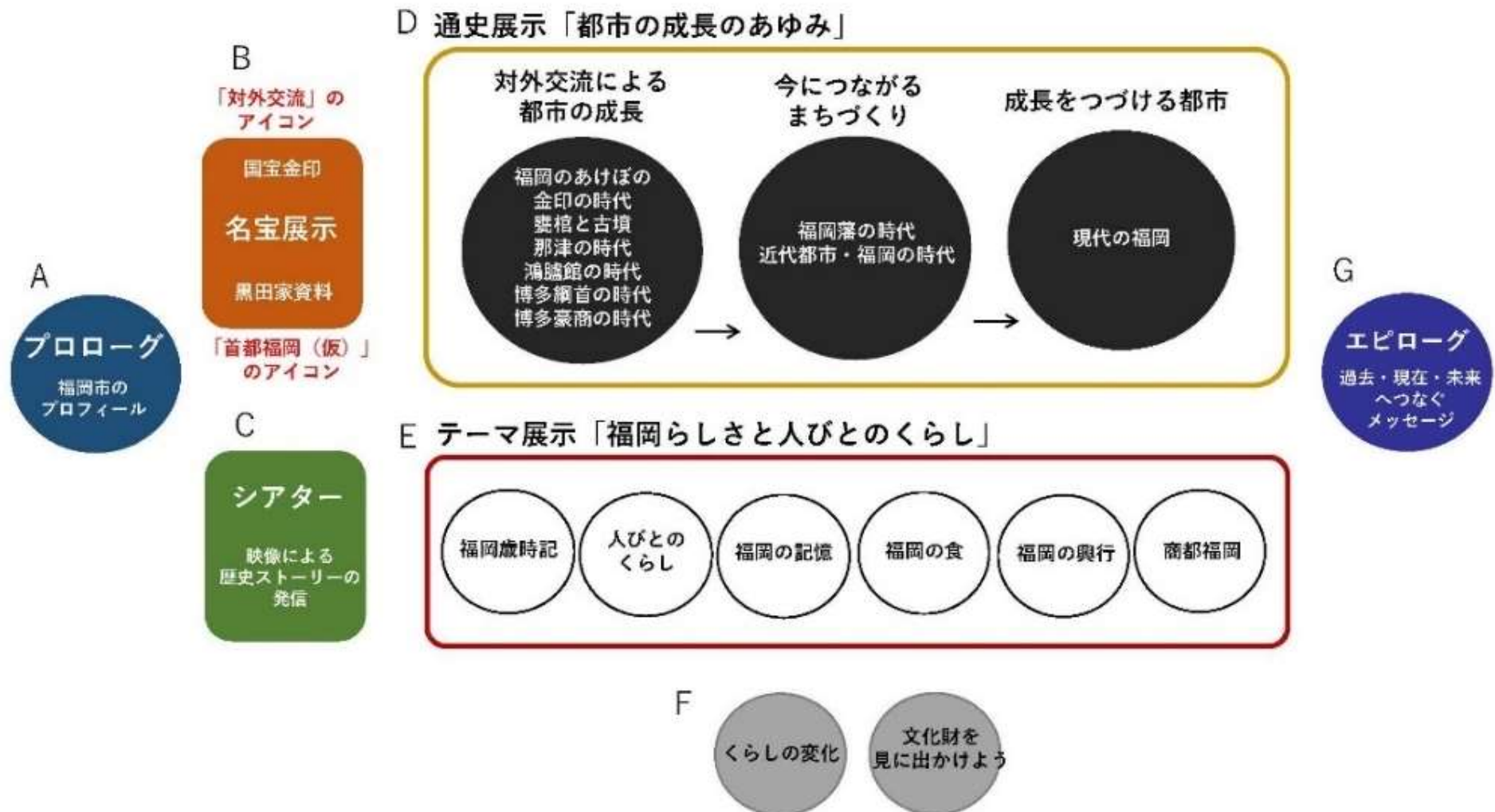
4. 常設展示室をどうしたいのか

【今とはちがう何か】

- 訪れた人それぞれの「福岡イメージ」にフックをかけるプロローグ
- 通史展示に加えてテーマ展示、交流展示を設ける

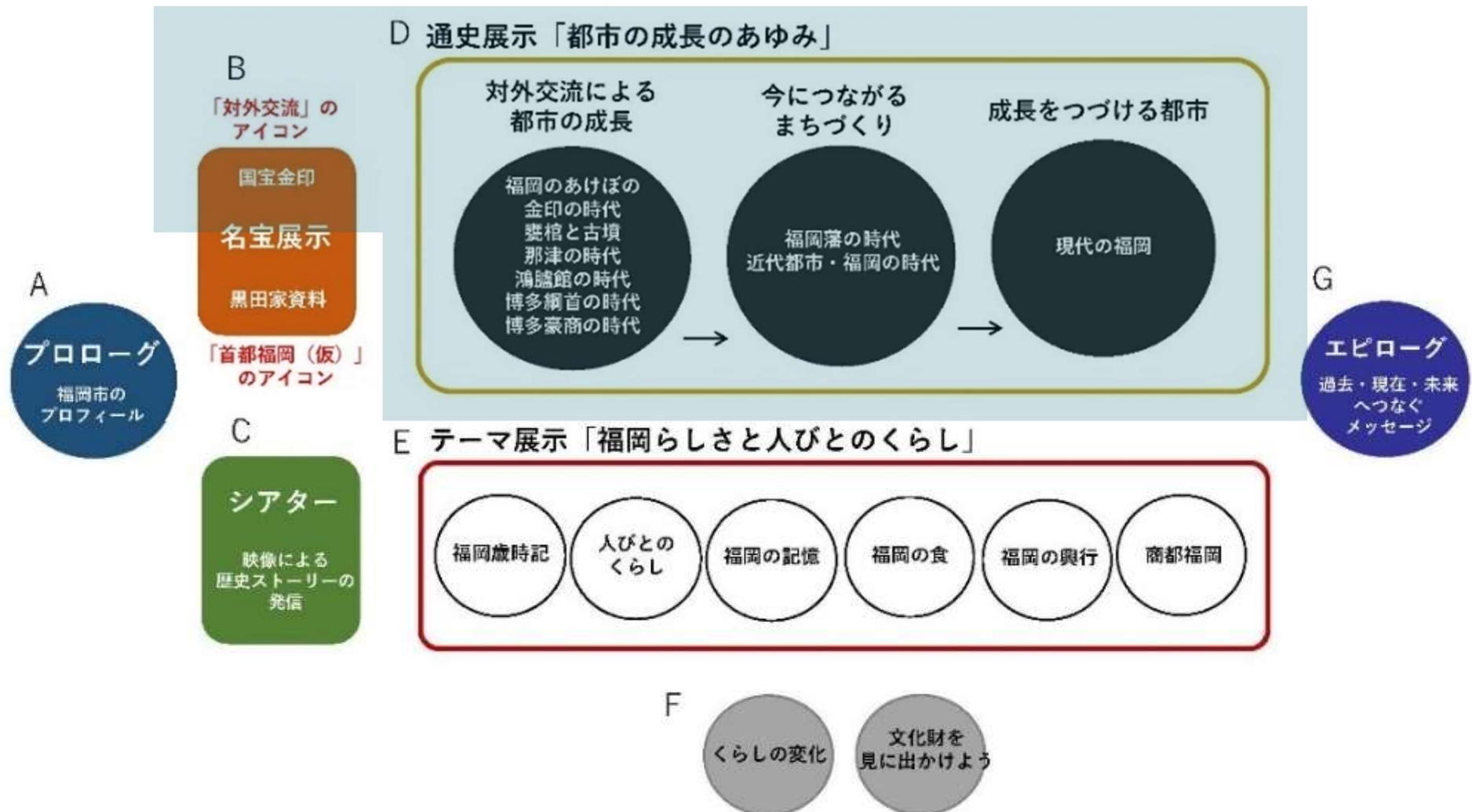
4. 常設展示室をどうしたいのか

【今とはちがう何か】



4. 常設展示室をどうしたいのか

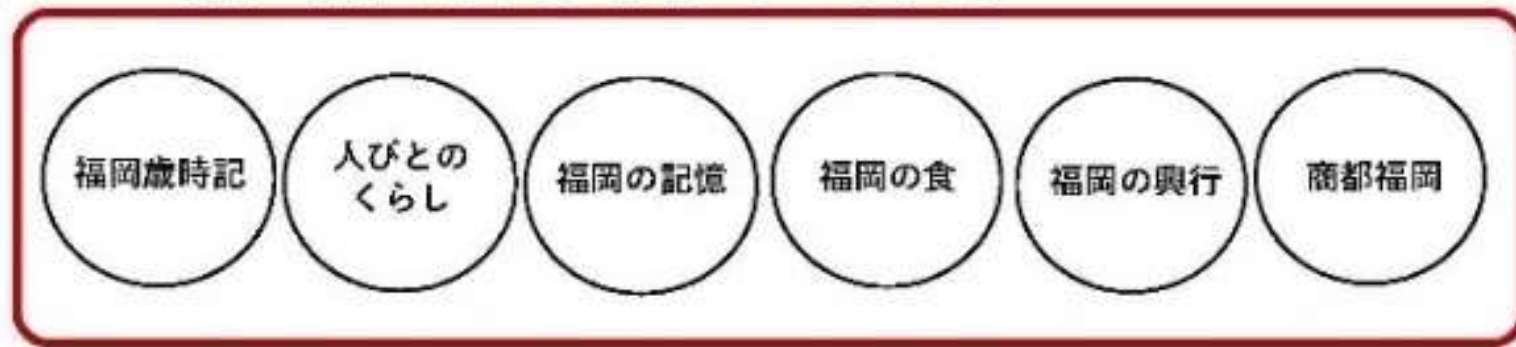
【今とはちがう何か】



4. 常設展示室をどうしたいのか

【テーマ展示の役割】

E テーマ展示「福岡らしさと人びとの暮らし」



- 今日「福岡らしい」、「福岡の強み」と思われているコトを歴史から紐解く。
- 市民が担い手となっている地域の文化について、世代間で変わっていくことと変わらないことの認識を分かち合える空間をつくる。

4. 常設展示室をどうしたいのか

【テーマ展示の役割】

- いま、このまちでおきていること（変化）もまた、歴史とつながっていることが分かる空間

【交流展示「くらしの変化」の役割】

- 常設展示を学校の授業で活用してほしい。
- 通史展示を活用しやすいのは小学6年生以降
- 中学年の学習内容にフックがかかるコーナーがあるべき

4. 常設展示室をどうしたいのか

【交流展示「文化財に会いに出かけよう」の役割】

- 常設展示は、いわば「時空トンネル」、「異世界」。観覧者は、そこから実空間に戻っていく。交流展示は、常設展示室内ではシャットダウンされているさまざまな実空間の要素を取り戻す空間。そこを通過して実空間に戻った時に、観覧者は、展示を見る前とくらべて「まちなかやくらしの場に、歴史が息づいていることを感じられる」ようになっている。

4. 常設展示室をどうしたいのか

【空間について】

- 「はっきりと意図が伝わる区画（観覧者の体験をデザインしている空間）」と意図が暗示的な区画があってよい。
- 象徴的な空間がほしい。水族館の大水槽前、自然史博の恐竜骨格展示フロアみたいな…、「●●博物館といえばこのカット（写真）」的な…。

4. 常設展示室をどうしたいのか

【今とはちがう何か】

- 創り込んだ展示空間を「耕していく」「育てていく」

- 博物館だより「Facata」の特集

- 学芸員による常設展示ギャラリートークの定着



4. 常設展示室をどうしたいのか

【前とはちがう何か】

- 常設展示**全体**を通して伝わるコトの重視
- 常設展示室内のコストのマネジメントを効かす…つもり…

5. 常設展示室と体験学習室（1）

【期待する役割のちがい】

常設展示室

- 一貫性・体系性のある内容
- いわば「料理を味わってもらう」空間

体験学習室（1）

- 福岡（日本）の歴史・文化に関する個別のモノコトに対する関心を興す
- 博物館の情報資産にアクセスできる
- いわば「食材をそろえられる」空間